

## インターバンクの声（2016年8月1日）

週末、日銀が追加緩和を発表した直後の円相場は、一旦は102円70銭辺りまでドル売りが進んだものの、その後104円近くまでゆっくりドルが反発していたので、暫くは102円から106円あたりでの相場が続くのではないかと考えていた。もっとも、ニューヨーク時間に発表された米国の第2・四半期国内総生産(GDP)速報値と今週末の7月雇用統計が無難な結果になることが前提ではあったが、これほどまで米GDPが悪化すると予想出来た人もほとんどいなかったのではないだろうか。雇用統計の結果次第ではもう一度市場センチメントが変わることもあるかも知れないが、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げの可能性はほとんど消えてしまった気もする。米国債券市場での米国債券利回りも、短期から長期間まで全ての期間で4～6ベーシスも低下している。金利低下は株式市場にとっては追い風になるが、さすがにこれだけ米GDP結果が悪ければ、景気の先行きを懸念が大きくなってしまう。週明け早朝の円相場は、週末ニューヨーク市場終盤に付けた102円割れから少し戻して始まっているが、あまり大きなドルの反発は期待しないほうが良さそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。